



未来志向の消費行動と企業活動を実現させる
社会システムアイデア「Earth Cost」

エントリー番号:20067

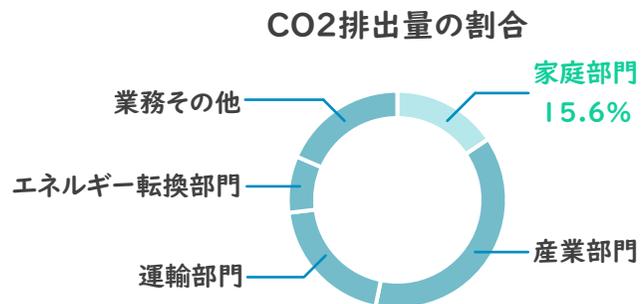
課題：パンデミック終息後もCO2排出量を抑えていける社会システム、および達成・定着のためのコミュニケーションプラン

達成のためのハードル：気候変動に対する行動への「負担意識」

ターゲット：一般生活者、企業、NPO団体などの民間組織

POINT①

CO2排出量のうち個人による排出はわずか15.6%。
一般生活者だけではなく、企業も意識・行動を
変化させる必要がある。



*環境省 2018年度温室効果ガス排出量(確報値 2020年4月発表)

https://www.env.go.jp/earth/ondanka/ghg-mrv/emissions/results/material/kakuhou_gaiyo_2018.pdf

POINT②

気候変動に対する行動への「負担意識」を、
自ら選択する「前向きな意識」に変化させる。
→能動的な消費行動と企業活動のサイクルへ。



なぜ日本人は「負担意識」をもってしまうのか？

レジ袋の有料化や紙ストロー導入は
始まったが・・・

現状はいつも利用している店舗の方針を
「仕方なく」受け入れているだけ。
能動的な選択になっていない。



環境にやさしい行動をしようと思っても・・・

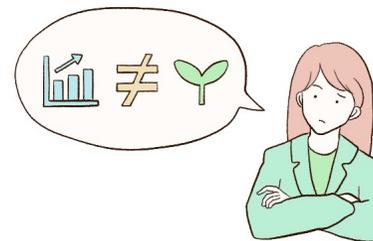
どの商品のCO2排出量が多いか等の
「選択基準」がない。

結局「寄付」や「マイボトルの持参」など、
負担意識がある選択肢しかなくなってしまう。



そんな一般生活者のマインドに対して
企業も・・・

気候変動に対する行動が自社の成長に
つながるイメージが持てず、本業として
取り組む動きが広がっていかない。



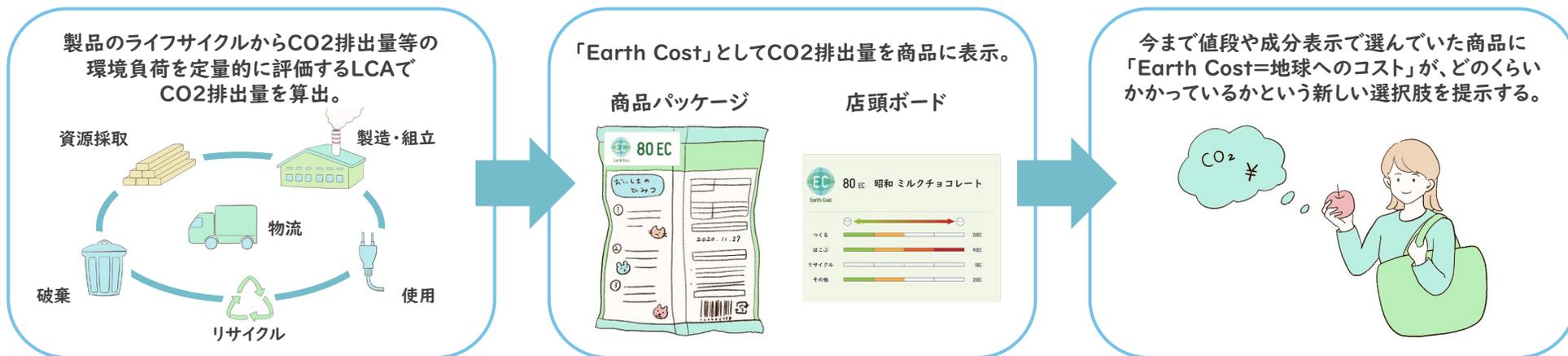
気候変動に対して、能動的な選択ができていない。

気候変動に対して「能動的に行動できる選択肢」及び「選択基準」を一般生活者に提示することが必要。

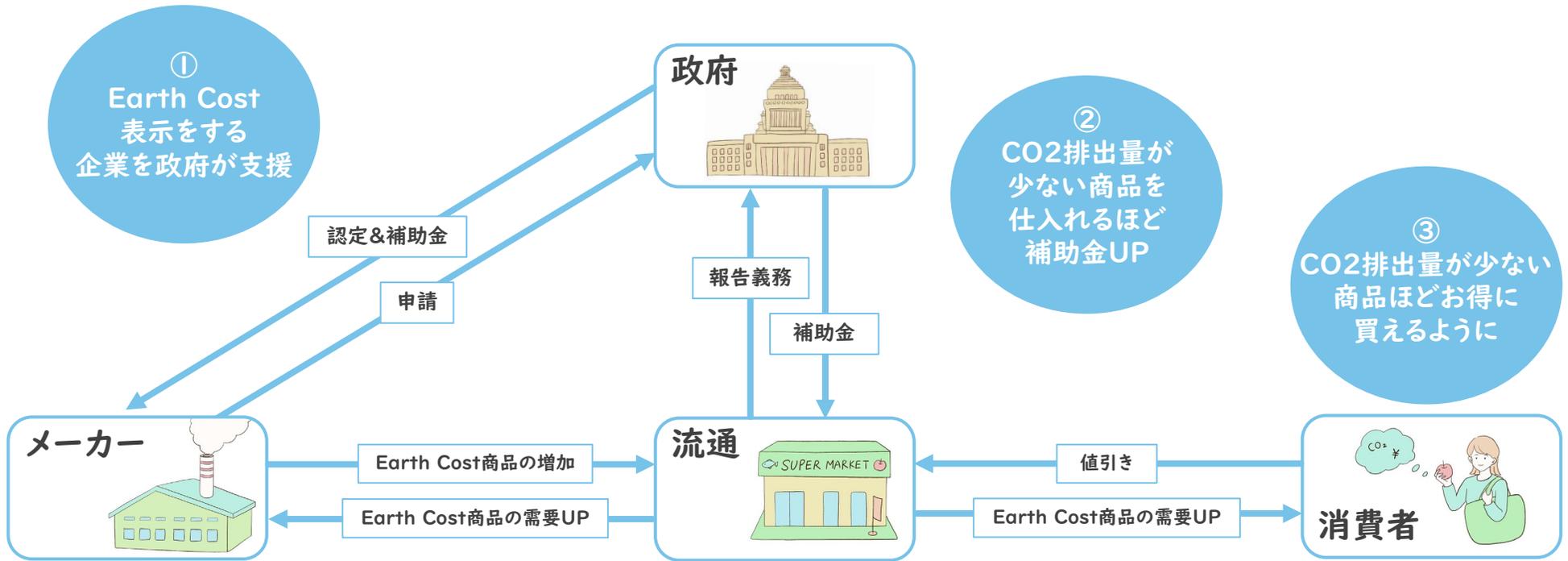


CO2排出量の見える化

CO2排出量の商品表示規格



気候変動に対する能動的な行動を起こすための選択肢をつくる



- ① 会社単位の申請。自社のCO2削減の取り組みと何年後までに全商品にEarth Costをつけるかを表明。基準をクリアした企業に補助金を支給。
- ② 仕入れた商品のEarth Costに応じた補助金を小売店に付与することで、よりCO2排出量が少ない商品を仕入れる動きをつくりだす。小売店にはEarth Cost商品の購入履歴の報告を義務化。
- ③ 売価は流通が設定するが、競争の原理が働くので結果的によりCO2排出量が少ないEarth Cost商品が値引きされて販売される。

CO2排出量が少ないほどお得→参考値で終わらせず行動も促す仕組みに



200円
10EC

$$200 \times 1 / 10 = 20$$

20円値引く



店頭販売価格
180円



200円
25EC

$$200 \times 1 / 25 = 8$$

8円値引く



店頭販売価格
192円

CO2排出量が少ない商品ほど値引きされる仕組み

※実際のEarth Costと値引き金額の割合は業界ごとに適正値を設定

割引シールで一般生活者にもわかりやすく。日々の購買行動の中で環境意識も高めていけるようにする。



商品に表示をする「企業」と、商品を選ぶ「一般生活者」両方へのアプローチが不可欠。

<企業へのアプローチ>

Keidanren
Policy & Action

経団連がイニシアティブをとる「チャレンジ・ゼロ」との連携し、Earth Costを各業界へ浸透させていく。

- ・加盟会社へEarth Costの商品表示を呼びかけ
- ・Earth Cost参加企業の紹介、参加コミュニティでの活動 等

「チャレンジ・ゼロ」とは

経団連が日本政府と連携し、気候変動対策の国際枠組み「パリ協定」が長期的なゴールと位置づける「脱炭素社会」の実現に向け、企業・団体がチャレンジするイノベーションのアクションを、国内外に力強く発信し、後押ししていく新たなイニシアティブ。

<一般生活者へのアプローチ>

①さまざまな表示が乱立する中で、まず「Earth Cost」を知ってもらう

話題化施策



②日常的に「Earth Cost」に触れる機会を創出する

定着化施策



「Earth Cost」が世の中に浸透



CO2排出量の減少



製造業と運輸で、CO2排出量全体の約46%を占める。^{*}
2050年カーボンニュートラルを実現するために、
「Earth Cost」ではおもに製造・運輸部門での削減を狙う。

*環境省 2018年度温室効果ガス排出量(確報値 2020年4月発表)

<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/ghg-mrv/emissions/>

GREEN WEEKEND

Earth Cost表示の商品を購入できるサイトを設立。
サイトに会員登録した人は、週末にさらにお得になるセール「GREEN WEEKEND」に参加できるようになる。



- まだ店頭Earth Cost商品が少ない初期の段階から消費を促進することが可能に。
- 生活者へメリットを提示し会員化することで、Earth Costを日常生活の中に定着していくことを狙う。



CO2排出量の商品表示規格「Earth Cost」が世の中に広まる



気候変動に対する行動はやらされているという負担意識から、自ら選択する前向きな意識へ変化



パンデミック終息後もCO2排出量を抑えていける社会システムが完成する